

## § 小論文 §

生徒氏名 \_\_\_\_\_ ○○○○

課題名 \_\_\_\_\_ 看護系小論文 No.9

インフォームド・コンセントの問題に看護師はいかにかかわっていくべきか、自分の考えを述べなさい。 (800字程度)

《概評》

《総合評価》  A  B  C  D

(コメント)

認知症高齢者へのインフォームド・コンセントを例に、看護師のかかわりについての配慮について考えると問題の焦点をしぼっているのは、よい試みだと思います。

ただ、インフォームド・コンセントそのものと、看護師の役割について、書いておくことがあると思いますが、高齢者の話に飛びこしてしまいそうに感じました。

随所に、認知症高齢者の状態（身体的、心理的、社会的）への留意点も書いているのですが、（たとえば「患者の性格・成育歴・家族歴などを踏まえたインフォームドコンセントが必要となる。」という記述もあるのですが、）インフォームドコンセントとは何なのか、そのなかでのあり方ををもっとはっきり述べるとよいと思います。

どういうことを述べると、通じやすいか、以下考えてみました。

インフォームド・コンセントは「医療の担い手が、医療を提供するにあたり、適切な説明を行い、医療を受ける者の理解を得るように努めなければならない」（医療法 1 条）というようなことや、よい治療を行うためのインフォームド・コンセントの意味・目標を最初にかくとよいと思います。

そのために、医療チームの中で、看護師に期待される機能は、日常的に触れ合うことが多いだけに、患者さん・ご家族の視点からのアドボカシー機能の発揮が期待され、医師と看護師の機能の連携のためにも、コミュニケーションが大切になります。

病名や病状に関する情報、期待される治療の効果や成功率、費用、後遺症の可能性、副作用などが、話し合われます。

病気に対して素人である患者が説明を正確に理解することは困難かもしれませんが、受ける治療が最良の選択であることを患者が理解し、治療に同意できるに至るような話し合いが目標である。患者家族の不安・焦燥が高い場合や、患者の理解力が不十分な場合の話し合いについて、医療側の対応の適切さが求められるため、看護師への期待も多くなる。24時間患者のそばでケアする看護師は、患者や家族の様々な心情に接する状況にあるため、インフォームド・コンセント後の患者の言動や心理状態の変化を観察し、精神的サポートを継続して行う立場にある。

認知症の高齢患者では、理解力が低下し、判断能力が十分でなかったり、同意したことを忘れてしまったり、自己決定を貫くことも難しくなってくる。このような場合でも、高齢者の理解力を査定し、能力に応じ配慮のあるインフォームド・コンセントを実施することが大切である、意思決定をこまめに確認し、暖かい人間関係を築いていくことが求められる。

以下の下線部や黄色いところは、読んでいるとき大切だなと思った箇所です。

↓↓

看護系小論文⑨ インフォームドコンセントの問題に看護師はいかにかわっていくべきか、自分の考えを述べなさい（1000～1200字）

インフォームドコンセントの問題に看護師がかかわっていく際には、インフォームドコンセントを受ける患者の精神的・身体的・社会的側面に配慮した関わりが必要であると考える。本稿では、高齢者に対してのインフォームドコンセントを例に、このことを考えてみたい。

現在、日本は高齢化率が著しく、総人口に占める 65 歳以上の割合は 26, 7%である。平均寿命の延伸と比較すると、寿命との隔たりが大きく、心疾患、悪性新生物、運動器疾

患などの疾患を持ちながら認知症に罹患する高齢者の割合の増加が著しい。65歳以上では7人に1人が認知症であり、認知症の前段階とされる軽度認知障害と推計される約400万人を含めると4人に1人が認知症あるいはその予備軍と言われている。認知症患者に対してのインフォームド・コンセントは、基本的には患者の理解度を考慮しながら家族を主としたインフォームド・コンセントが行われる。しかし、子世帯は都市部に、親世帯である高齢者は地域在住であるなど、高齢者のみの単独世帯も増加しており、医療従事者からの認知症高齢者に対してのインフォームド・コンセントが行われる際には、患者の基本的権利を守る責任のある看護師による認知症患者へのインフォームド・コンセントに対する専門的な知識が必要となる。

また、疾患を持つ高齢者は自殺率も高く、高齢者へのインフォームド・コンセントに対しては、自殺の危険因子である患者の性格・成育歴・家族歴などを踏まえたインフォームドコンセントが必要となる。この場合も患者の生命の質を低下させない関わりに責任のある看護師にとって、高齢者と自殺との関係に専門的な知識のある看護師のインフォームド・コンセントへの介入と専門的な知識を持つ看護師の育成が必要となる。

60代後半からはエリクソンの発達段階論によると第八期にあり、統合性と絶望の相反する時期にある。統合性とは自分の生きてきた人生を見つめなおし、残りの人生に関心を持つことであり、絶望とは現状を認めながらも取り返せないものを悔やみ絶望に陥ることである。この発達段階の課題を獲得することで得られるのは英知であるが、疾患や喪失体験などの危機に対しての対処機能が発揮できない時に危機に陥り、発達段階の課題達成がなされなくなる。看護師は高齢者の危機克服の援助を行い、高齢患者本人がセルフケアを高め、英知を獲得するような働きかけが必要となる。

このように、高齢期にある人は様々な危機に陥る恐れがあるが、看護師は彼らの精神的・身体的・社会的背景をアセスメントし、インフォームド・コンセントの際には看護師の専門的な知識をもとに、高齢者の生命の質を高める関わりが必要になると考える。